

ボーイスカウト東京連盟
あすなろ地区 広報誌
第42号
2023年(令和5年)
3月25日
普及委員会

日向野営場でスカウトキャンプ研修会を開催 主任講師 佐藤武信

3月11日(土)～12日(日)1泊2日の日程で、東京連盟日向野営場において、20名の指導者が参加され、実施いたしました。

各班5名とし、班担当スタッフの直接指導のもとに、テントの立て方、たたみ方、立ちかまど等の野営工作、刃物の取り扱い方、調理実習、ナイトプログラムなどを体験頂き、スキルトレーニングの野営関係該当項目も履修していただきました。

また実習だけでなく、スカウトキャンプ研修会について、スカウトキャンプとはなど、理論についても講義も受けていただきました。

この研修を通じて参加された方々は、指導者としての知識・技能・心構え(態度)に一層磨きがかかったと思います。今後のご活躍に期待いたします。

最後にこの紙面をお借りして、昼夜を問わず参加者への支援に注力頂いた班担当のスタッフの方々、また開設にあたりいろいろご準備頂いたA I S委員会の方々に感謝申し上げます。



場内の山武閣



班サイト



講義風景



夜の講義



夕食



コップェル磨き



テーブルの制作



班長会議



立ちかまどの制作



包丁研ぎ実習

各団に日本連盟100周年表彰状授与、指導者上級訓練修了証の授与

3月13日（月）、阿佐谷地域区民センターで開催の地区委員会に先立ち、本年、日本連盟は創立100周年を迎えたことから、あすなる地区各団は令和4年度加盟登録団として青少年の健全育成に寄与したとして、全団に表彰状が授与されました。

また、杉並3団ベンチャー隊長の内田朋子さんは、ウッドバッジ実修所ボーイスカウト課程を修了したことから、修了証とウッドバッジ、スカーフが授与されました。



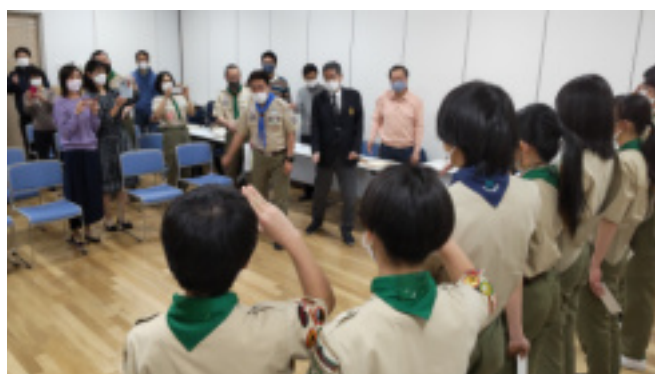
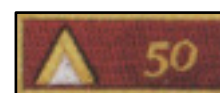
隼スカウト章、プラチナキャンパー、プラチナハイカーの伝達

3月13日（月）開催の地区委員会では、隼スカウト章、プラチナキャンパー、プラチナハイカーの伝達もおこなわれました。

隼スカウト章 杉並3団 深浦柊希
杉並11団 出原もも、今井文香、逢坂真依、
高田庚樹、古澤優真

プラチナキャンパー（キャンプ50） 杉並11団ボーイ隊 工藤澄子

プラチナハイカー（ハイク200） 杉並11団ボーイ隊 藤原滉矢

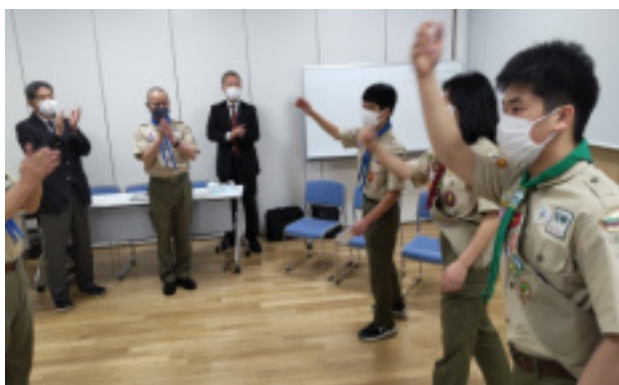


富士スカウト章を受章

2月13日(月)、阿佐谷地域区民センターで開催の地区委員会に先立ち、富士スカウト章を受章した杉並5団の関戸香織さん、杉並11団の奥村政為さんに富士スカウト章記念品が授与されました。



また、プラチナアワード「ハイク200」が杉並6団の松下剛丈さんに授与されました。



隼スカウト章

昨年12月12日(月)、阿佐谷地域区民センターで開催の地区委員会に先立ち、杉並11団の高木瑞希さんに隼スカウト章が授与されました。



東京マラソン2023 ボランティア奉仕



3月5日（日）、約3万8千人のランナーが参加した東京マラソンが開催され、東京都庁前をスタートしたあと、日本橋、浅草、銀座などを通り、ゴールの東京駅行幸通りまで駆け抜けました。

あすなろ地区からは東京都庁のスタート地点に杉並3団1名と11団の6名、中野5団と8団の各1名の計9名が参加して、大会主催者より支給されたボランティアウェア、キャップを着用し、車いすランナーのサポートを行いました。

日本橋交差点では杉並4団1名、杉並5団2名が参加し、交通規制で日本橋交差点の横断歩道が閉鎖されたため、ボランティアに地下通路の入口や道順を聞く歩行者も多い状況でした。

今大会はフルマラソンのコースの他に、東京都庁から日本橋交差点をゴールとする10.7kmのコースが設けられ、16才から18才までのジュニア世代や、障がい者、車いすの男子、女子が参加しており、高校名の記されたゼッケンのランナーや、手を振ってゴールする車いすランナーなどをゴールに誘導しました。

コロナ禍も落ち着いて、今回のマラソンは4年ぶりに沿道の応援の規制はなく、以前の通常の規模で開催されたため、沿道で応援している多くの観覧の方から、次々に走り抜ける多くのランナーに名前を呼んだり、盛大な拍手の応援もあり、本来のにぎやかな東京マラソンが戻ってきました。

道路を埋め尽くすランナーは応援に応えながら、7時間の制限時間の中で、それぞれのペースで都心の景色を楽しみながらゴールを目指して走り、“東京が一つになる日”を楽しんでいました。



あすなろ地区の参加メンバー



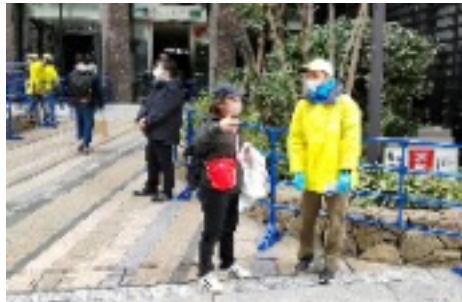
参加ランナー記念品の整理



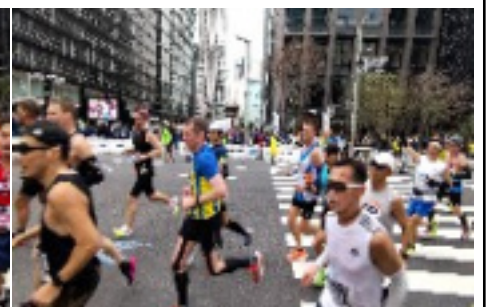
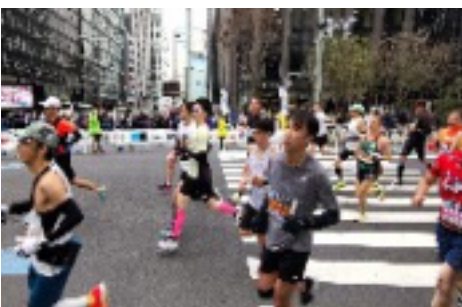
ボランティアグループへのガイダンス



道順を案内



鉄砲洲囃子のにぎやかな応援



駆け抜けるランナーたち

パインウッドダービー 地区予選会

1月15日(日)、中野区の谷戸小学校体育館で、あすなる地区のパインウッドダービー予選会が”ぶっちぎれ!!君の車がNo1”をテーマにして開催され、杉並4団、5団、11団、13団、中野5団、8団のカブ隊が参加しました。

スカウト手作りの愛車はレース開始前に重量、長さ、車幅などの車検があり、不合格の車は手直しして参加しました。



参加記念の缶バッジ

杉並11団の田原さんの「レディ・ゴー!」の掛け声に合わせて4つのレーンに各車が一斉にスタートし、走行タイムが記録されました。各車ともレーンを変えて4回試走した平均タイムが成績となりました。

うさぎ、しか、くま、アンリミテッド(保護者、指導者)各クラスの以下の上位の方は、2月26日(日)、本郷学園で開催されたパインウッドダービー東京大会に出場しました。

うさぎ部門：①北村陽奈子 杉並11 ②野崎有紀 中野8 ③川瀬すず 中野8

しか部門：①小澤恵子 中野8 ②丸井風太郎 中野8 ③佐々木航 杉並11

くま部門：①山崎太喜 中野8 ②臼杵佑奈美 中野8 ③岸文平 中野8

アンリミテッド：①高野真由美 中野8 ②曾我彩子 杉並13 ③広瀬治男 杉並12

組出場：①中野8団3組 ②杉並13団1組



車検前の車の調整



ルールの説明



長さ、幅などの車検



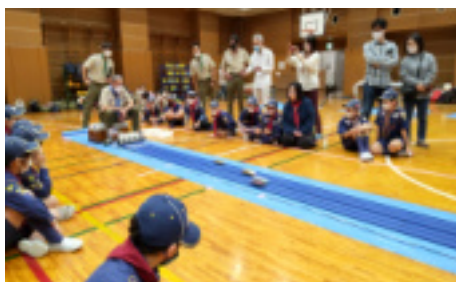
合格した車には番号シールを貼布



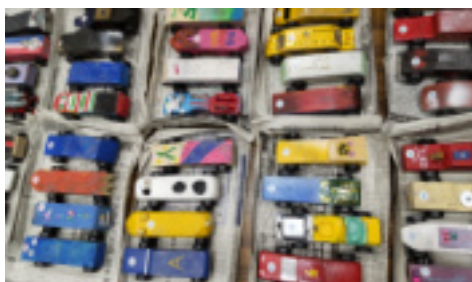
掛け声とともに疾走



見守るスカウト



どの車が1番早いか…



出番を待つ力作の車



この車はカッコよくて、早そう…



競技結果がまとまるまでゲーム会



優秀組の表彰

パインウッドダービー 東京大会

2月26日(日)、「2023パインウッド・ダービー東京大会」が豊島区の本郷学園の体育館で開催され、あすなろ地区予選会の上位入賞者、中野8団、杉並13団のカブ隊が参加しました。

東京大会は参加スカウトが多いため、午前の部と午後の部の2部制で、あすなろ地区は午後の部となりました。

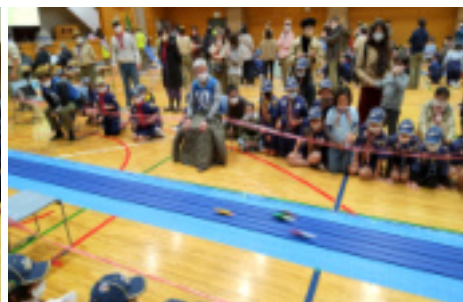
開会セレモニーで大きな輪になってカブコール、実行委員長などの挨拶のあと、うさぎ、くまのレーンと、しか、アンリミテッドのレーンとで、左右のレーンに分かれて、競技が開催されました。

「1、2、3、ゴー」のかけ声で車は出走しますが、盛大な声援にもかかわらず、ゴールにたどりつけずに止まってしまう車も見られました。

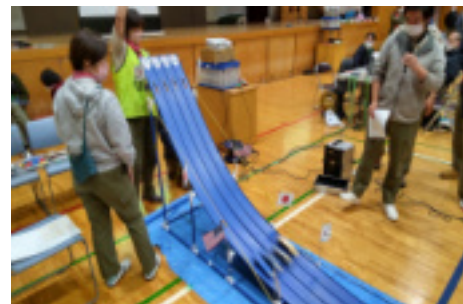
ルールは地区予選会と同様に4回出走して平均タイムで順位が決まり、うさぎ、しか、くま、アンリミテッドの1～3位入賞者には賞状とメダルが授与されましたが、残念ながら、あすなろ地区の入賞者はありませんでした。



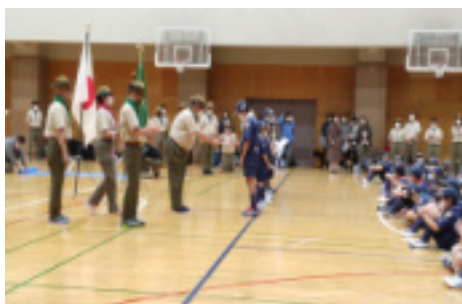
カブコールで開会式



左右2つのレーンに分かれて出走



上位入賞者に贈られたメダル



表彰式

6年でカテゴリーCランクからAランクへ

令和4年11月23日(祝)、東京連盟の“普及広報フォーラム2022”がオンライン開催され、中野8団の沼上品子さんが標記のテーマで、団登録者数をCランクからAランクに向上させた施策について講演されました。

東京連盟のYouTube (<https://www.youtube.com/@scout-tokyo>) で杉原連盟長のメッセージ動画や他の講演とともに閲覧できますが、各団の募集活動のヒントになる事項も多いことから、とりまとめました。

<告知の重要性> 2016年開始当時、ビーバー隊、カブ隊の人数が合計8名の状態だったため、この年を募集改革元年として募集活動に力を入れ始めた。この頃は体験会は行っていたが、告知はスカウトの保護者からの声かけや、地域の掲示板への掲示で効果が少なかったため、小学校でのチラシ配布に切り替えた。

ただ、学校によって対応が様々で、生徒に個別配布、設置のみ可能なところ、配布も設置も不可なところという状態だった。中野区は5月に授業参観のような学校公開があるので、設置可能な学校には、保護者が学校に行く学校公開のタイミングに合わせてチラシを置くようにした。各学校にはスカウトがいる学校には保護者から、いない学校は指導者・団委員が手分けして対応した。初年度は約3千枚のチラシを配布して30組ほどの親子に参加いただき、10名程の入隊があった。

<助成・後援の確保> 2018年からは「子どもゆめ基金」からの助成を受けることで、助成金を得るというより助成活動をしている大義名分ができ、チラシを個別配布してもらえる学校が増えた。また「ワクワク自然体験あそび」が導入され利用することで、区の教育委員会から後援を得られるようになった効果も大きく、2022年では15校の1年～5年生で約8千枚配布している。

<申し込み> 参加申込は、当初はメールで受けていたが、チラシにQRコードを記し、Google Formを使うようにしたところ、チラシ配布後数日で定員親子30組がすぐに埋まるようになった。コロナ後の野外活動への需要の高まりの影響もあると思われる。

<活動内容> 参加者の大半はビーバー年代。実際の体験会は普段の活動を少し膨らませた、いかにもボーイスカウト的な内容にしている。スカウトは集会として一緒に参加している。また参加者には「仲間のしるし」として、ゲスト用ネッカチーフを着用いただいている。ボーイ隊以上は運営支援参加とし、参加保護者にスカウトの未来の姿を見せる効果としている。

体験会は、ボーイスカウト活動を知ってもらう機会と割り切っており、団独自の案内、ボーイスカウト講習会で使われるノートの一部をコピーして資料とし、子どもの体験中に保護者向けに活動説明会を行い、ビデオ上映も合わせ活動紹介している。

<フォローが大切> 体験会に来れば入隊にすぐに繋がるとは考えていない。当団は各隊の予定や活動報告をまとめた「団通信」を毎月発行しており、活動体験参加者や問合せのあった方にも団通信を送り、団HPにも掲載している。また募集担当者からは都度活動予定をお知らせして参加を呼びかけている。入隊まで時間がかかる事例もあるが、長い目で見ており、今年度はフォーラム時点で、体験会で6名、体験会以外で10名ほどの入隊があった。

<今後に向けた分析> チラシはこれまで1年～5年生を対象に配布しているが、分析をすると体験会から入隊につながった95%はビーバー世代のため、来年度からは1年～3年生を対象の配布を検討している。



上：ネッカチーフ着用の参加者



右：自然体験あそびチラシ表面、裏面



わくわくフィールド体験を開催 杉並3団ビーバー隊副長 笹野隆昭

1月29日(日)、桃井幼稚園園庭で「わくわくフィールド杉並in清水」を開催しました。ちょうど寒波が来ているところでしたが、比較的温かい一日でした。

団関係者は8:30に集合してチェックポイントやテント、立ちかまどなどを設営し、モンキーブリッジはベンチャー隊長を中心に、団委員や保護者も協力して組み上げ、本部では名札やネッカチーフ、参考資料などを整頓して準備しました。

イベントは13:00からで、30名の参加者と、ビーバー・カブのスカウトを5班にわけてお互いの自己紹介をしました。名前のあいうえお順や、誕生日順に並び替えてもらうことで、少しでも顔と名前を覚えてもらいました。

ラリーが開始され、班のみんなで指令書を確認し、指示されたチェックポイントに向かいました。

最初のチェックポイントは水運びで、底に小さな穴の開いたペットボトルに水を入れ、天秤にぶら下げて運びます。穴があってもキャップをすれば漏れずに運ぶことができ、災害時の簡易水栓として利用できることを学びました。

次は火起こしで、炭に木切れや落ち葉などを入れて、上部に張った糸を焼き切る時間を競いました。子供たちは楽しそうに木切れを投入していました。火の管理も大事な任務です。

3つ目のポイントはおなじみの「キムスゲーム」で、シートの下に隠してあるモノを30秒で覚えて、書き出します。

ロープワークのポイントではロープで輪を2つ作り、ゴールまで輪を投げて交互につたいながら移動しました。輪が狭すぎて、“おとっとと…”となることもありました。

最後のポイントは園内の追跡記号を使ったゲームで、各所におかれた木や石のマーキングを探して謎を解き、お宝を見つけることができました。

チェックポイントを回ったあとは、モンキーブリッジで遊びました。不安定なロープの上でも、子どもたちはバランスをとりながら上手に渡りました。モンキーブリッジは、子どもたちの大行列ができる人気の工作物です。

最後に帰着の報告をして参加賞をもらって、解散になりました。

コロナ制限もだんだん緩和されてきて、外遊びができるようになってきているので、体験会を通じてスカウトも増えていくといいなと思います。



モンキーブリッジの作成



参加者の皆さんが集合、資料手渡し



班に分けてお互いに自己紹介



指令書をみんなで確認



穴あきペットボトルの水を運搬



たき火で糸を焼いて切断



おなじみのキムスゲーム



輪が狭すぎて おとっとと…



大行列のできたモンキーブリッジ

楽しいお餅つき

杉並13団ビーバー隊長 澁谷武弘

1月22日（日）、杉並13団は大宮八幡宮スカウトの森で毎年恒例のお餅つきを開催しました。天候にも恵まれ、各隊のスカウト・指導者・団委員・保護者が参加しました。

前日から水に浸したもち米を焚火と新しい蒸し器で30分ほどかけて蒸し上げ、男性リーダーが汗だくになって、杵でもち米を粒が見えなくなるくらいにつぶすと準備完了。スカウト達はなかなか待ち切れない様子ながらも、きちんと順番を守ってお餅をつくことができました。

初めてのスカウトは杵の重さに驚いていましたが、一生懸命楽しんでお餅をついていました。

つき上がったお餅は保護者が一口大に丸め、あんこ・きなこ・のり醤油で味付けしてくれました。大宮八幡宮に奉納もしました。

できあがった丸いお餅は、家にある四角いお餅とあまりに違うので、「食べたくない」と戸惑ったスカウトもいましたが、ひと口食べたならそのおいしさに驚き、何度もおかわりをしていました。保護者とベンチャー・ローバーで作った豚汁も、一緒においしくいただきました。

ベンチャー・ローバーは日頃学校生活で忙しく、活動に参加することが難しいですが、毎年お餅つきには多くのスカウトが集まり、力仕事や焚火の管理など自発的にやってくれるため、ビーバーやカブ年代のスカウトのお手本となり、楽しく有意義な活動になりました。



信仰のおはなし

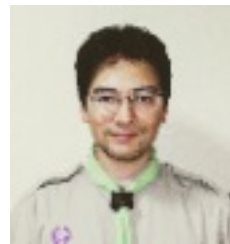
信仰奨励委員長 杉並9団 津村道夫

ボーイスカウトの「ちかい」では、一番最初に「神（あるいは仏）にまことを尽くす」ことを誓いますね。

ボーイスカウトの創始者ベーデン・パウエルも、このことをとても大切にしていました。でも皆さんは、このちかいの意味をしっかりと考えたことは、なかなかないのではないのでしょうか。

そこで、あすなる地区の「宗教団（寺院や教会が母体の団）」の教導職の先生方に、お話をいただきました。

お話を聞いて、少しでも「信じる」ことについて考える機会になればうれしいです。



「勉強する意味」

杉並9団母体 浜田山キリスト教会 主任牧師 青山 潤

聖書のはじめに、神は人間を愛し、大きな役割・使命を持つものとして造られたと書かれています。神は人を愛し、人も神と人を愛していました。ところがあるとき、人は神に背き、神から離れ、神を愛する喜びと使命を失いました。

昔、大学が出来たころ、すべての学問は「科学」と「アート」の二つに分かれています。科学（サイエンスscience）は「知る」というラテン語scientiaを語源として「神が造ったものを知る」ことを意味していました。

対してアート（art）は、「人間が作るもの」を意味しています。（人工甘味料は英語でartificial sweetenerと言いますね。）

人は神を愛し、神が造ったものを知ることを喜びました。また、神を喜び讃えるために音楽を作り、絵を描き、詩を作りました。そのためすべての学問の前に、神を知ることが必要でした（“哲学は神学のはしため”と呼ばれています）。

このように神を愛していた人間でしたが、あるとき神を捨て、離れ、神を否定するようになりました。これが現代の私たちです。神が造ったものを知るための科学は、神を無視し、拒否するかたちでこの世界を知ろうとし、時に世界を搾取し、破壊しています（兵器開発等）。神を讃えるためのアートは人間の問題や悲慘を現すものとなりました（バンクシー etc..）。

あなたはなぜ勉強するのでしょうか？

良い学校に入り、自分の願う仕事に就くため、そして幸せを得るための手段でしょうか？親の期待に応えるため？ それらも大切なことかも知れませんが、勉強自体に意味を見出しているのでしょうか？

もしあなたが神を知るなら、自分に与えられた使命を取り戻し、意味を見出して学ぶことが出来るでしょう。この神によって造られた世界の素晴らしさ、そしてあなた自身を含んだ人間のすばらしさを知って、学ぶこと自体の目的と喜びを発見することが出来ます。

すべての人が聖書を通してこの世界と自分自身を造った神を知り、学ぶ意味・生きる意味を知り、喜び楽しんで学び、また生きることが出来るように祈っています。

「あなたは知らないのか。聞いたことがないのか。

主は永遠の神、地の果てまで創造した方。

疲れることなく、弱ることなく、その英知は測り知れない。」

（聖書・イザヤ書40章28節）



※教導職の話を伺いたい場合は、隊長を通して信仰奨励委員会にお声がけください。ご紹介いたします。